

【短報】埼玉県におけるマルドロムシ科の追加記録

マルドロムシ科 Georissidae は、日本国内から 1 属 7 種が記録されている (Hansen, 1999). Hansen (1991) は、本科の生息環境として水辺の湿った砂の中を挙げており、佐藤 (1981) によれば、国内でも主に河川の似たような環境で得られているようである。

筆者らは、埼玉県初記録となるヤマトマルドロムシと同属 2 例目の記録となるシウムネマルドロムシの標本を有するため、記録を公表して採集時の状況にも言及したい。なお、同定は Satô (1972)、佐藤 (1981)、中根 (1995) を参考にして、最終的な同定確認を吉富博之博士にお願いした。

ご多忙のところ、標本の同定確認を頂くと共に本稿にも目を通して頂いた吉富博之博士 (愛媛大学環境昆虫学研究室)、茨城県におけるマルドロムシ科記録に関して教示頂くと共に、貴重な文献を恵与頂いた大桃定洋博士 (茨城県阿見町)、埼玉県における同科記録に関して教示頂いた新井浩二氏 (埼玉県嵐山町)、文献とご助言を頂いた蓑島悠介氏 (北海道大学大学院昆虫体系学研究室) に御礼申し上げる。



図1. ヤマトマルドロムシ (荒川河川敷産)。

図2. シウムネマルドロムシ (赤平川河川敷産)。



図3. ヤマトマルドロムシ採集地環境 (落葉後は日当たりが良い) (2012年2月撮影)。



図4. 下草除去後の同種採集地土壌 (2012年2月撮影)。

ヤマトマルドロムシ *Georissus japonicus* M. Satô, 1972 (埼玉県初記録種, 図1)

1ex., 埼玉県秩父市下影森 (荒川河川敷) (標高 190 m), 1-2. V. 2010 (さなぎ粉を誘引剤としたピットホールトラップ), 岩田朋文採集保管。

ヤマトマルドロムシは、新潟県村上市の小さな池の底に堆積した落ち葉中から採集された個体を基に記載された種である (Satô, 1972; 佐藤, 1981). 埼玉県の近県では、新潟県、茨城県 (ただし、報文内に「同定には多少の疑問あり」との記述がある) (高野・大桃, 2008), 静岡県 (多比良, 2005; 北野, 2011) から記録されている。茨城県の産地は、同一地点で多くの個体が採集されており (高野・大桃, 2008), 本種の生息地として貴重であったようだが、東日本大震災の津波により大きな影響を受けたようである (大桃博士, 私信). ちなみに静岡県では、本種は県のレッドリストにて情報不足 (DD) に選定されている (静岡県, 2004).

今回報告した埼玉県産の個体は、荒川中流域の河川敷に仕掛けたピットホールトラップで得られた。誘引剤としてサナギ粉を用いたが、これに本種が誘引されたわけではないだろう。採集地点は河畔林内で下草が茂り、日当たりが悪く、地表は湿っていた (図3)。また下草を除去して、付近一帯の土壌が砂地であることを確認している (図4)。最寄りの水辺からは、河川敷にある池から約 10 m, 河川から約 50 m の距離があり、水辺の間近より得られたわけではない。これらの状況は、多比良・石川 (2011) にあるババマルドロムシ *G. babai* M. Satô, 1970 の採集状況や環境とよく似ている。

シウムネマルドロムシ *Georissus kurosawai* Nakane, 1966 (図2)

3exs., 埼玉県秩父郡小鹿野町黒海土 (赤平川河



図5. シワムネマルドロムシ採集地環境 (2012年2月撮影)。



図6. 同種採集地土壌 (2012年2月撮影)。

川敷) (標高 260 m), 24. IX. 2007, 岩田朋文採集保管。

シワムネマルドロムシは、愛知県名古屋産の標本を holotype として、福島県会津若松、北海道帯広の標本を加えて記載された種類である (Nakane, 1966)。本科の中では分布域が広い種類のように (佐藤, 1981)、各地で記録が見られる。埼玉県の近県では、東京都 (Satô, 1972)、神奈川県 (平野, 2004)、栃木県 (栃木県, 2003)、静岡県 (多比良, 2005) など記録されており、前種同様に静岡県ではレッドリストにて情報不足 (DD) に選定されている (静岡県, 2004)。埼玉県では新井 (2006) により、ライトトラップへ飛来した複数個体の記録が公表されていたが、生息環境については知見が乏しかった。

今回報告した個体は、雨天時に赤平川河川敷の砂地にて石起こしをおこなった際に得られた。採集地点は河川から約 2 m に位置し、砂地を枯れ草や流木が所々覆っている (図 5, 6)。同地には度々採集へ赴いており、同様の採集を実施しているが、追加個体は得られず、見つけ採りによる本種の採集は難しいと思われる。

引用文献

- 新井浩二, 2006. 埼玉県から新たに記録される甲虫類 (10). 寄せ蛾記, (121): 1-10.
- Hansen, M., 1991. The hydrophiloid beetles. Phylogeny, classification and a revision of the genera (Coleoptera, Hydrophiloidea). Biologiske Skrifter, Det Kongelige Danske Videnskabernes Selskab, 40: 1-368.
- Hansen, M., 1999. Georissidae. Hydrophiloidea (s. str.) (Coleoptera). In Hansen, M. (ed.), World Catalogue of Insects, 2: 44-51. Apollo Books, Stenstrup, Denmark.
- 平野幸彦, 2004. コウチュウ目, pp. 335-835. 神奈川県昆虫誌 II, 神奈川県昆虫談話会.
- 北野 忠, 2011. かつては水生昆虫の楽園 遠州浜の後背湿地. 水生昆虫大百科 2011 年度特別展「およげ! ゲンゴロウくん~水辺に生きる虫たち~」展示解説書, pp. 90-92. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- Nakane, T., 1966 (1965-1966). New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions. XXIII. Fragmenta coleopterologica, (part 14): 55-58; (part 15): 59.
- 中根猛彦, 1995. 日本の雑甲虫覚え書 13. 北九州の昆虫, 42 (1): 41-46, pl. 6.
- 高野 勉・大桃定洋, 2008. 茨城県産甲虫リスト補遺 (2). るりぼし, (36): 18-37.
- 栃木県, 2003. 栃木県自然環境基礎調査 とちぎの昆虫 II, 557pp. 栃木県林務部自然環境課.
- Satô, M., 1972. The georissid beetles of Japan. The Journal of Nagoya Women's College, (18): 207-213.
- 佐藤正孝, 1981. 日本産マルドロムシ科概説. 甲虫ニュース, (53): 1-4.
- 静岡県県民部環境局自然保護室, 2004. レッドリスト昆虫類. 2012年2月26日参照. [https://www2.pref.shizuoka.jp/all/file_download103500.nsf/07F9B3A818B59B6A492573A100374F5F/\\$FILE/13_redlist\(insecta_rev\).pdf](https://www2.pref.shizuoka.jp/all/file_download103500.nsf/07F9B3A818B59B6A492573A100374F5F/$FILE/13_redlist(insecta_rev).pdf).
- 多比良嘉晃, 2005. コウチュウ目. 静岡県野生生物目録, pp. 107-163. 静岡県環境森林部自然保護室.
- 多比良嘉晃・石川 均, 2011. 天竜川河川敷におけるババマルドロムシの確認記録. さやばねニューシリーズ, (3): 23-25.
- (岩田朋文 790-0852 松山市石手3-2-58キャッスル石手501号 jupiter33_it@yahoo.co.jp)
- (岩田泰幸 940-1104 長岡市撰田屋町2633-3 ニューロンサニター (株) laccotrephes_1874@yahoo.co.jp)